

令和2年度 第2回 静岡市立登呂博物館協議会会議録

- 1 日 時 令和3年2月10日(水) 午前10時から午前12時まで
- 2 場 所 静岡市立登呂博物館 1階 登呂交流ホール
- 3 出席者 (協議会委員)
- 山岡 拓也 会長、海野 美枝 委員、北川 和彦 委員、
杉山 昌之 委員、弓削 幸恵 委員、木村 貴子 委員、
渋谷 かさね 委員、堀切 正人 委員、石亀 雅敏 委員、
上原 薫 委員 (全10名)
- (事務局)
- 岡村 渉 文化財課長
文化財課(登呂博物館)
- 宮本担当課長兼登呂博物館長、梶山主査、鈴木主任主事、
國島主任主事、中村主任主事
- 4 傍聴者 0人
- 5 議事記録 1 文化財課長挨拶
- 2 議事
- (1) 令和2年度下期の事業報告
- (2) 登呂遺跡復元水田における観光者向け体験
プログラム実施報告
- (3) 議題①「登呂遺跡を誇りに思う市民を育む登呂
博物館運営の在り方」

事務局

ただいまより、令和2年度第2回静岡市立登呂博物館協議会を開催いたします。本日は、お忙しい中貴重なお時間をいただき誠にありがとうございます。

はじめに、本日の会議ですが、清水第六中学校長の杉山委員が少々遅れてみえるとのことですので、委員定数10名のところ10名のご出席をいただき、定員の過半数に達しているため、本会議は成立いたします。また、この会議は市民に公開されておりますが、本日は傍聴希望者の方がいらっしゃらないことを併せてご報告いたします。

私、中村が会議進行を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします

ます。

それでは、開会に先立ちまして文化財課長 岡村渉よりご挨拶を申し上げます。

1 文化財課長挨拶

課長

皆さん、こんにちは。文化財課長の岡村です。よろしくお願いいたします。委員の皆様には、ご多忙のところご出席いただきまして誠にありがとうございます。今回の協議会につきましては、新型コロナウイルス感染症対策として、皆さんの席の間を十分に取らせていただきまして、換気にも注意することで開催させていただくことにいたしました。

今年度の登呂博物館の来館者につきましては、前回の協議会でもお話しましたが、4月から5月は休館となりました。それから、コロナの流行がありまして、大幅に減少しておりました。ただ、協議会のあとでだいぶ回復したことをご報告いたします。これは学校関係のところですが、見学が秋に延期されたということがありました。また、今まで東京へ修学旅行に行っていた生徒さんが、特に山梨・長野が中心なのですけれども、静岡に目的地を移していただいたということで、登呂博物館にだいぶ多くの来館があったという、今までにない状況がございました。こうしたことが学校関係者さんにも評価されて、今後も東京一極ではなく引っ張ってくれればいいなというのが、私たちの考えでございます。

そのような中で、水田の部分の活用が始まっております。1号地を使いまして、赤米の収穫体験を約1カ月間実施したのですけれども、これだけでも千人弱の方が参加していただくというような、コロナの中でも登呂博物館が色々と頑張っているということが目についたこととございます。これは後ほどご紹介があるようです。

本日のテーマであります行財政改革推進審議会で提言のあった「登呂遺跡を誇りに思う市民を育む登呂博物館運営の在り方」ということで、前回に続きまして、またご意見をいただきたいと思います。

アフターコロナというような状況ではございますが、静岡市の観光拠点としましても、本来的な社会教育施設である登呂博物館というところで、今後も発展していくように、皆様のご意見をいただいてそれを事業に反映させて頂きたい

と思いますので、本日も忌憚のないご意見・ご助言を頂きたいと思います。よろしくお願いいいたします。以上で私の挨拶とさせていただきます。

事務局

ありがとうございました。それでは、次第に沿って進めさせていただきます。まず、配布資料の確認をお願いいいたします。上から次第、委員名簿、令和二年度第一回協議会会議録、登呂エリアにおける歴史・文化資源の活用方策の検討状況、カラー版A3のものです。登呂エリアをモデルとした歴史・文化資源の活用方策方針書の概要、こちらもカラーA3です。登呂博物館令和元年度館報、冊子です。そして、令和二年度登呂博物館冬季企画展ちっちゃ展ちらし、以上でございます。お手元でございますか。本日の協議会ですが、前回の協議会から継続している議題として「登呂遺跡を誇りに思う市民を育む登呂博物館運営の在り方」について、委員の皆様からのご意見を賜りたいと思います。先日送付させていただきました資料も併せてお手元にご用意いただくようお願いいたします。

それでは、ここから議題に入りたいと思います。議事の司会進行は、博物館条例第12条第4項により、会長に依頼したいと思います。それでは、山岡会長お願いいいたします。

山岡会長

よろしくお願ひします。それでは、これより私の方で、議事の司会進行をさせていただきますのでよろしくお願ひいたします。議事の開始にあたりまして、本日の協議会は、議事録について公開することになっています。公開にあたり、内容について、会長や委員が確認し、署名することになっています。署名者として、私の他にもう一方お願ひしたいのですが、今回は上原委員にお願ひさせていただきますと思いますが、よろしいでしょうか。

(異議なし)

それでは、よろしくお願ひいたします。ありがとうございます。

2 議事

(1) 令和2年度下期の事業報告

山岡会長

それでは、まず令和2年度の事業報告および稲作体験プログラム、赤米収穫体験の実施報告について、事務局から説明をお願いいたします。

(2) 登呂遺跡復元水田における観光者向け体験

プログラム実施報告

事務局

館長の宮本です。よろしくお願ひします。本日は、新型コロナウイルス感染症の中、色々な対応などを心配される中、わざわざお集まりいただきありがとうございます。それでは、資料に沿いまして、説明をさせていただきます。まず、博物館協議会資料の1ページをご覧ください。前回の博物館協議会は10月30日に行われましたので、10月30日から後の部分を主に説明させていただきます。

では、1ページの一番下のところ、(3)企画展「水とともに生きるー静岡平野のパイオニアー」を10月3日から11月29日までの間、開催しています。この企画展についてはリレー講演会ということで、4回の講演会を行いまして、色々なテーマで様々な講師の方を呼んで開催したイベントとなっております。そのあと、2ページになります。2ページ上の(4)企画展「ちっちゃ展」は現在開催している企画展になります。資料でピンク色の吹き出しを付けてございます。これが1月9日から、2月28日までです。その後、企画展「前方後円墳がやってきた。ー静岡市の古墳時代ー」を3月20日から6月13日まで開催の予定です。これにて、今年度の企画展は終了となります。

その後、遺跡の活用事業としまして、資源水田事業でありますとか、3ページの遺跡復元活用事業でありますとか、田植え田漕体験とかを行っていたのが全貌です。(5)の赤米収穫体験につきまして、後ほど職員の梶山より簡単にご案内させていただきます。

4ページになります。4ページ(5)令和2年度の新事業ということですがけれども、これ一旦ご説明した事業となりますけれども、繰り返し説明させていただきます。

新事業として、(1)の田んぼサポーターということで、水田のボランティアを城南静岡高校、駿河総合高校、県立大学の有志の方とかに参加いただいて新たな水田の開拓、復元をしております。

二つ目が、田園コンサートということで、博物館前の広場で市内の中高生によ

る吹奏楽のコンサートを開催いたしました。

それから、三つ目がドロロン子パーク、8月、9月に復元水田された部分で泥遊びということで、これで約一千人以上の来場者がいました。それから、あと登呂ミュージアムストリートというものをまた行っております。

5ページになります。新型コロナウイルス感染症拡大に伴う来場者数の推移の表、(1)の来館者数の比較を見ていただきますと、10月、11月、12月については、対前年比で128パーセント、11月が123パーセント、12月が103パーセントということで、先程課長からご挨拶させていただいたとおり、去年を上回るような来館者数を得ております。その内容が、やはり今までなかった新たな修学旅行としての来館であったりとか、ちょうどこの時期G o T oキャンペーンをやっていた時期というのもありますけども、集中してお客様が来ております。ただ、その後、ご存知のとおり、年末から1月にかけてまた移動を自粛するような通知がありましたので、また現在は少し減っております。単純に今年の4月から1月までの間の来館者数で言いますと、去年の55パーセントの来館者数になります。これは4月から5月にかけて閉館時間があつたりとかを含んでのことですけども、来館者数は55パーセントになります。それから、有料観覧者についても表を見ていただくと、9月が142パーセント、10月が242パーセント、11月が157パーセント、12月が172パーセントというように、これは対前年よりも、ずっと増えております。内容の理由の分析ですが、今回、予約を取って修学旅行だとかいう形で見学を目的にわざわざ東京方面から静岡へ方向を変えてというような来館者の方も目立っております。その中で、来た方はかなりの確率で目的を持って、二階の常設企画展を見て帰られているということで、これが有料観覧者数の増に繋がっていると分析しております。有料観覧者数が、4月から1月までの計を見ますと、表にはないですけども、対前年度64パーセントになっています。来館者数が55パーセントのところ、有料観覧者については64パーセントということで、約10パーセント上回っている状況になります。

それから、続きまして令和3年度の方針報告をさせていただきます。9ページをご覧ください。令和3年度の事業についてということで、まず企画展のそれぞれの方針について書いてございます。まず、最初の企画展は、地域の遺跡・歴史文化を守る企画、企画展の2は、登呂につながる登呂つながりを見る、企画展の3は、登呂を中心とした考古学の研究成果の紹介、企画展の4は、幅広いテーマ

考古学以外も可能という方針を立てております。

それについて、10 ページになります。令和3年度の展示予定の企画展の予定です。まず、企画展「前方後円墳がやってきた。－静岡市の古墳時代－」を3月20日から6月13日まで行います。二つ目の企画展が、7月3日から9月5日まで「有度山展」という企画を行います。それから三つ目、10月2日から11月28日まで「WOOD 木の考古学」というテーマで企画展を行います。それから令和4年の1月8日、2月27日までの期間、「古代の刀剣」というテーマで企画展を行います。

その後、11 ページになります。企画展「静岡市の奈良平安時代」ということで、3月19日から6月11日まで企画展を行う予定でおります。あと、教育普及事業は、例年通り企画をしております。

では、簡単ですが、以上をもちまして令和2年度事業報告と3年度事業方針の説明とさせていただきます。

山岡会長

ありがとうございます。次は赤米もよろしくお願ひします。

事務局

では、続きまして、赤米収穫体験ということで、6ページから8ページまでの報告をさせていただきます。こちらの赤米収穫体験では、登呂遺跡の中で弥生時代の生活をより理解するため、登呂遺跡の歴史的な価値の発信ということで、復元水田の活用を図る一環としまして、作業体験プログラムということで収穫体験、一つが赤米の穂苧の体験と、もう一つが、その穂苧用の石包丁作りの体験、この二つを体験プログラムということで、前回皆様の方に、このプログラムに関して、色々アドバイスをいただいたところがございますが、こちらを、昨年11月に延べ11日間土日に実施させていただきました。

こちらのプログラムにつきましては、文化庁から交付決定を受けました文化資源活用事業、非補助金、Living History 生きた歴史体感プログラム促進事業ということで、遺跡等の文化財の好循環を図ることを目的とした補助金でございます。実際にこの期間行いまして、参加費としましては、石器づくりで300円、稲刈りは100円という金額を設定いたしまして実施しました。石器づくりの方

では、弥生時代のお米の収穫で穂首狩りを行うための石器を、石を取る作業を中心に行いましたが、当初一日10人程度ということで見込んでおりましたが、人気があり、朝すぐに完売してしまうことから、石材をちょっとお出ししまして、一日およそ30人くらいまでの定員という形で実施いたしました。

続きまして稲刈りの方では、こちらの復元水田の方で石包丁等の作成について実施いたしました。コロナの関係もございまして、体験時間およそ5分から15分くらいの体験ということで行いました。それぞれ作業としましては、石を研いだり、稲を刈るということで、親子で楽しめる事業ということで、なおかつ体験、観光で来られた方についても、時間のない中で、割りと手軽にできる事業ということで、アンケートの中でも「とても楽しかった」「楽しかった」という方が9割おりました。好評で行えたと思います。8ページに参加された方達の内訳を載せてございますが、石器づくりでは、市外・県外の方が五割強ということで、稲刈りの方でも、市外・県外の方が37パーセント、およそ4割の方が、体験に来ていただきました。やはり家族・親子で来られる方が多く、お子さんに体験させていらっしゃる方が多かったと思います。今回、コロナ禍という、小康状態ではありましたが、広報もホームページ等でさせていただきまして、それを見てお越しいただく方が多かったように見受けられます。7ページには、その時の状況を写真として載せさせていただいております。

今後の課題は、一つは、料金体系の見直し、あとは、それぞれが単発の事業でございましたので、これら他の体験プログラムと有機的に繋げるようなことも必要かなと考えております。あと、対応スタッフがなかなかマンパワーも足りなかったのもので、来年度実施の際は、博物館ボランティアの方の協力とか、もう少し人数を動員して色々登呂遺跡のことも話せるようなスタッフでの対応を考えていきたいと思っております。そのほかにつきましては、やはりいただいた意見の中では、登呂遺跡でしかできない体験でよかったという方もいらっしゃいましたので、より登呂遺跡でしかできない体験というところをブラッシュアップしていかなければならないかな、と考えております。もう一点が、体験していただいても、それでやりっ放し、やって終わりというふうになってしまう印象を受けましたので、体験メニューとして、登呂遺跡の歴史的価値や、魅力の発信というところをより強化していくために、または博物館の展示等に誘導していただけるようなガイド・案内というのは、今後の課題だと認識をしております。報告につき

ましては、以上になります。

山岡会長

ありがとうございました。それでは、皆様から質問やご意見がありましたら、ご発言いただくようお願いいたします。質問やご意見、ある方いらっしゃいますでしょうか。

渋谷委員

聞き落としでしたら申し訳ありません。赤米収穫体験の実施報告を今いただきまして、最後の次回以降の検討課題の中のことですけれど、料金体系の見直しの予定について、もう少し具体的にどうなるかを、情報提供いただけるとありがたいです。

事務局

今回、料金体系ですが、石器づくり体験で300円、稲刈り体験で100円という金額でさせていただきました。こちらにつきまして、文化庁の補助金の目的としましては、これらの遺跡の活用にあたりましては法循環というところで、費用対効果というところをしっかりと念頭に置いて金額等を設定することというような意見がありまして、文化庁からもう少しこの金額について高くすることはできないのか、というふうなご意見もいただきました。ただ、やはりこちらの方も金額についてのアンケートを取っているところですが、約7割の方が「ちょうどいいのではないか」ということで、残りの2割、3割の方は「もう少し高くしてもいい」という意見もあったのですけれども、前回こちらの一回目の協議会の際、この金額についてのご意見もいただいたところで、やはりこういった市民にも参加していただくような体験については、「このくらいの金額が妥当ではないか」という御意見もいただいたのですけれども、やはりこういったものをもう少し色々な付加価値を付けて金額を高くしていくような検討を課題として、次回考えて参りたいと考えております。以上でございます。

山岡会長

ありがとうございました。他に御意見・御質問ある方いらっしゃいますか。

石亀委員

おはようございます、石亀と申します。今、赤米の方がお話に出ていたので、先に赤米についてお尋ねしますが、赤米は大体坪数で何坪くらいの場所で作っていらっしゃるんですか。

事務局

全体の復元水田の方では約1、2ヘクタール弱の広さになるのですが、そのうち今、およそ水田にできている面積としましては、3分の2程度になります。今回、体験として、この収穫体験で使った面積としましては、全体の10分の1かそのくらいになります。残りは各団体水田ということで、保育園とか、そういった団体にお貸ししています。あとは市民水田という形で、市民の皆さんに活用していただいている水田がございます。今回体験としては、全体の10分の1かそのくらいになるかと思います。

石亀委員

ちなみに、把握しづらいかもしれませんが、収穫量は大体どのくらいと考えていますか。

事務局

すみません、実は収量については、計測をしていなくて、持ち合わせる数字がございません。申し訳ございません。

石亀委員

次に、収穫した赤米の処理方法。どのように分配するか、どのように販売しているのか。それから最後に、私達は分からないですが、赤米の味、食感については、どうなんでしょう。

事務局

赤米につきまして、各種団体とかご家族で作っていただいている赤米については、皆さん持ち帰りいただいています。それはこちらで干して、脱穀をしても

み作業をするというところまで、だから赤米ですといわゆる赤いお米の状態、玄米の状態を持ち帰っていただいているわけですが、中には、玄米の状態ですとプチプチしていて、普通のお米より、まあ玄米の状態ですので硬いものですから、私どもはご案内する時は、普通の白米の、精米されたお米に、1対9の状態混ぜて食べていただくと、色々な触感が楽しめて美味しいと思います、ということでご案内していますが、こちら精米にして食べても、割と味は美味しいものですから、そうしたご案内をさせていただいております。

石亀委員

そうすると、参加者にお分けしてお渡しという形で。販売はしないですね。

事務局

そうですね。すみません、販売についてはまだしておりません。

事務局

すみません、補足で説明させていただきます。水田を利用しているのが、まず団体水田という団体の方に貸して、そこで栽培してもらっている水田。それと市民水田といって、2～3メートルくらいの一區画ずつをそれぞれ家族単位で貸して、栽培している水田。あとそれ以外の部分があるわけです。今回のその赤米収穫体験というのは、博物館で栽培している部分の田んぼを使って、そういう体験をさせていただいたところなんですけれども、現在その南側の水田を広げているところで、だんだんこれから水田が広がってくると収量が全体として増えてくるわけですね。今、委員の方でおっしゃった販売方法については、今までのところはそれぞれ作った方に持ち帰っていただく、または稲刈りをした方に、自分で稲刈りした分を持って帰っていただく、という形で大体分けていたのですが、その販売についてはこれからの課題だと思っています。例えば、赤米を用いて土産物であるとか、登呂の一種の名産・ブランド品みたいな形で、なんとか商品化して売りたいと思っていますけれども、それはこれからの課題ということで、今現在はその方法について色々研究している段階です。

石亀委員

今、館長がおっしゃった利用方法も非常に大事なところとなってくると思い

ますのでぜひ、お考えをいただきたいと思います。また、あとは後ほど。

山岡会長

ありがとうございました。一応この議題は 10 時半までとなっております、どうしても質問や御意見ある方、いらっしゃいますでしょうか。いらっしゃらなければ、あとで議論する時間がありますので、その時にご発言いただければと思います。それでは、次に進ませていただきますが、今日の議題である「登呂遺跡を誇りに思う市民を育む登呂博物館運営の在り方」について、事務局から説明をお願いいたします。

事務局

それでは、別紙 2 をご覧ください。静岡市立登呂博物館条例の議題について、簡単に説明させていただきます。これは、今までの振り返りになりますけれども、静岡市の行財政改革推進審議会の中で、登呂エリアの目指す姿として、一つ目が稼げる施設（文化力を経済力へ）で、二つ目が市民が誇りを持てる施設（シビックプライドの醸成）、二つを目指す姿を提言させていただいております。その登呂遺跡を誇りに思う市民は、どのような市民かということ、事務局の方で仮に整理させていただきましたけれども、資料の中央、登呂遺跡の価値や魅力を理解し、遺跡の価値や魅力を自ら周りの人に伝える市民というのを、仮の市民像として定義させていただきます。今まで、このシビックプライドの醸成、登呂遺跡を誇りに思う市民を、どんな方法で増えていくかということについて、色々今までいただいたご意見を整理したのが、下の四角の図になります。このポイントとして、遺跡に対する学びや気づき以外のものがまず必要ではないかというご指摘。それから、遺跡に親しみや愛着を持ってもらうような方策が必要じゃないかというご指摘。それから、遺跡への積極的な関わりをもっと作っていくべきじゃないかというご指摘をいただいております。そういったことから、遺跡の価値や魅力を自ら理解している方が増えていく、それから遺跡が好きになって自動的に利用する方が増えるという形になって、それが学校や地域など、周りの人に遺跡の価値や魅力を伝えるような人がだんだん育っていく。それが、そういった市民の方、生徒などがだんだん増えていくと、将来的には地域主体の価値の創造発信がなされている状態になって、これが博物館と市民が一緒の目線で、博物館の価値

を作り、発信していく状態になるのではないかと、というふうには整理しております。

裏面になりますけれども、そこで今回御意見をいただく上で、先ほどのとおり、主に4つの要素に分けて、それぞれテーマごとにご意見をいただければと思っています。そのテーマの①から④まで、学ぶ・親しむ・関わる、それとそれ以外の、その他というところになります。ですので、まずその下のすでにいただいている具体的なご意見ということで、学ぶについて、親しむについて、関わるについてご意見をいただいておりますけれども、それに沿った形で色々ご意見をいただければと思っています。

山岡会長

ありがとうございます。それでは、今事務局から説明いただきましたが、「登呂遺跡を誇りに思う市民を育む登呂遺跡、博物館運営のあり方」について、これから議論をしていくこととなりますが、令和元年度の協議会・前回協議会での各意見を踏まえた形で示されておまして、今後の具体的な方策とか、実際に博物館が取り組んでいく内容というのが、今後決定されていくのですが、それに役立つような内容について、皆さんからご意見をいただきたいということです。「学ぶ」「親しむ」「関わる」という三つの項目に分かれておまして、それでそこに当てはまらないものがある場合は、またご意見いただきたいと思っておりますが、「学ぶ」「親しむ」「関わる」三つの順番で分けて、ご意見をいただければと思います。

まずは、「学ぶ」ということで、項目と既にいただいている具体的なご意見というところがありますが、これらをご覧いただき、ご意見いただければと思います。よろしく願いいたします。これについては、すでに学校の先生方から活用する方法についてご意見をいただいております。そういったことについて補足や、これまで出ていないようなアイデアなどがありましたら、ご発言いただけるとありがたいです。

北川委員

南部小学校の北川と申します。まだ意見がまとまりきれていないわけなのですが、送っていただいた資料を見ると、授業の時期とズレがあるというところなんですね。確かに、私も元々は中学校の教員なものですから、小学校の社会

科でどれくらい扱うのかなということを調べてみたのですが、6年生の5月くらいに、8週間ほど歴史のスタートの部分がありまして、そのあたりで弥生時代・縄文時代の勉強があると思うのですが、時期としてはそんな感じになっているというところですね。コロナの時代になってきていて、修学旅行生がこちらに来て、私南部小ですぐ近くですから、他県から来ているんだな、と見ていたんですが、例えば修学旅行前に、子どもたちは訪問先を事前学習するんですね。書籍を使ったりとか、インターネットを使ったりとかして調べていくのですが、例えばその時に、インターネット上で検索できる状況であるとか、コロナの時代で直接バスに乗って行ったりするとか、公共の交通機関を使って出向いたりするというのがなかなかやりづらくなってくる時代で、あとギガスクール構想というのがあります。小中学生に一人一台端末をとという時代がすぐそこまで迫ってきているので、やはり ICT とかインターネット環境をうまく使っていくというのは、わざわざここまで来なくても登呂について調べられる、具体物については修学旅行等の機会はこちらに来て触れるという、そういったやり方がいいのかなと思います。

例えば、YouTube チャンネルみたいなもので、登呂遺跡について発信をしていくとか、そんなやり方はどうなのかな、ということを感じています。学校現場の教員と協力して45分の授業を組むというのが、果たしてどの程度できるのが分からなくて、各学校のニーズも違ったりすると思うんですね。講師として学校に来ていただいて、教室に実際に出向いていただいてお話をするというのであれば、該当校の教員と事前の打ち合わせをしていただいてということなんですが、何となくある程度のパッケージが、こういったこととか資料として提供できますよというサンプルがもしこちらみたいになっていると、その中から学校としては選んで使うということができるとというのが、感じていることです。まとめきりませんが、ICTの活用で、登呂博物館からの発信が一つ、学校の事業で活用になるとどんな資料が、どんなことができるか簡単なコメント一覧みたいなものがあると、活用しやすいかなという、その二点です。以上です。

山岡会長

ありがとうございました。他にご意見がある方いらっしゃいますでしょうか。

石亀委員

今の「学ぶ」というところに限って、お話したいのですけれども、近頃小学生に聞いたことなのですから、文化財を目で見るという学習は、各小学校で実施しているわけですから、その中で火起こし、ということが話に出て、一年生と三年生の子どもですけれども、実際に、昔の人はどうしたの、火を起こすのはどうしたのという話から、木をこすりあって、そして火が起こるんだよ、という話をして、ここには実際にできる道具が用意してあるのですけれども、それを、非常に難しいかもしれないのですけれども、学校としてここに来る生徒たちに、例えば3～4人のグループを作って火起こしの体験を実際にさせてみるのができたらいいな、と思ったんですね。両親が関心がある方は、火起こしができる日に連れてくることはできると思うのですけれども、火起こしについて実際に体験する人は、非常に小学生も少ないと思うんですね。登呂遺跡で火起こしをやった体験は、大人になってからも非常に心に残るインパクトの一つ、外部の学習になるのではないかと、最近思っているんですよね。こういったことが可能かどうか、時間のことや危険度ということもあるし、子どもにとってみては、自分で火を起こす、昔の人はそうして起こしたんだということを体験することは、非常に興味があり、動画ではできないことなんですね。この辺のことをご検討いただけると、と思ったのですけれども。

山岡会長

いかかでしょうか。火起こし体験の事業など、色々な事業をどんどん増やしたら大変になると思うのですけれども、可能かどうか。

事務局

今火起こしを、外では「村人さん」と呼んでいるのですけれども、屋外体験指導員の人たちに、あちらで1日2回行っているのですけれども、今はコロナであまり面と向かって色々な人が同じ器具を、入れ代わり立ち代わり使うことができない状態ですから、ちょっと離れたところで見学をしているのですけれども、将来可能となったときに、問題になるのは3～4人のグループだとかなりたくさんの方に教えないといけないものですから、指導をできる人、例えばボランティアさんに色々覚えてもらってやっていくとか、そういうマンパワーの手当

が必要かな、とっております。

山岡会長

私が今思い付いたことをお聞きしたいのですけれども、学校などで火を起こす、摩擦を起こすといったことはカリキュラムに含まれているものですかね。理科とかであるんですかね。あまりないですか。

杉山委員

摩擦で、エネルギーでやるので、熱との関わりをしますけれども、火起こし体験を学校でやるなら…。

山岡会長

学校で小学生が習う学習内容とリンクする部分があるかな、と。あまりないですか。

北川委員

火起こし自体を、かつての人がやっていたという意味では、やる意義があると思うのですけれども、火起こし自体がカリキュラムに入る、ということはないですね。

山岡会長

摩擦とか理科で習うようなことを、実際自分で実験するみたいなことになりますので。すみません、話が脱線しました。ありがとうございました。

他にご意見ある方いらっしゃいますか。

私も意見がありまして、今それと関わるのでお聞きしたのですが、「学ぶ」ということで、登呂遺跡や登呂博物館の価値を高めるということなのですが、「学ぶ」ことが、登呂遺跡のすごさを学ぶということはもちろん内容に含めていいと思うのですが、登呂遺跡の持っている情報が、どんな意味があるのか、社会の中での問題とどう結びつくとか、そういったことと結び付けていくことによって、意義付けていくことによって、より社会的な意味が増大するとか、大きくできるような気がするんですよね。例えば、全然違う話になってしまうのですけれど

ども、SDGsとか、持続可能な開発目標という話があって、環境との関わりは今静岡市でも取り組まれていることだと思いますが、そういう中に登呂遺跡の内容を落とし込めないかとか、そういうのを一つ思いました。

もう一つは、それと関係するのですが、自然と人間の共生がかなり今重要になってきているのですが、僕は考古学を教えていることは、歴史教育の中で、そういったことを教えるような項目が少ないというか、具体的に言うと、自然と人間の関わりを考えるためには、歴史的な知識だけじゃなくて、自然科学の知識も必要だと思うのです。それを融合させることによって、どんな意味があるのか考えられると思うのですが、そこがすごく分離されているような感じがするのです。自分としては、それを何か融合させるような時に、考古学とか遺跡というのは両者を含んでいて、それがうまく結びつけられるようなことが何かできるのではないかと、いうふうに思うのです。それで先ほどの摩擦ということですが、例えばこの前の協議会でもアイデアが出ていましたが、そこでその自然、田んぼの周り等、自然を観察するというだけでも、動植物の知識と実際そこで水田を作ったという歴史的なことと結びつくことですし、洪水の被害も地質学的な知識と、人間がそれにどう対処したかということに結び付きますし、そういうところで、歴史と理科を結びつけるようなことができるのではないかな、と思ったのですけれどね。先生方いかがですか。

杉山委員

今お話いただきました、まさにそういうところはすごく大事なところかな、と思います。いわゆる学校の学びの中では、合理性などの中で「教科」という枠組みがあって、それで学ぶことが、比較的全体を学ぶために合理的だ、ということで教科が定められてやっているんだけど、それだけだといかないもので、それを含めるために、総合的な学習の時間というものが提唱されて、入ってきたわけで、その部分がまさに先生がおっしゃったところだと思うのです。総合的な学習の時間で、私達が大切にしているのは、自ら課題を見つけるところですね。これだけ用意したから、やってみろというね。そういう場面も、ないじゃないと思います。人生の中には、色々やってみてわかることがたくさんあるんですよ。だけど、これだけ用意したからやってみろと言われても、それはいわゆる、薪はたくさん用意したけど、火はつけるかどうかというね。去年も同じような話を

しましたけれど、要するに、とても燃やすためのいいアイデアというものは、たくさんあると思うんです。でも、そこに火をつけるという、その部分というのは、まさに総合的な学習の時間でいうところの、課題を自分で見つけていく、そこには主体性がやっぱりないといけないと思うんですよね。この別紙の表側に、「市民が誇りをもてる施設」ということや、それからどのような市民か、というところに「自ら周りの人に伝える市民」となっているんですよね。これ、周りの人に伝えるだけだったら、知ったことを伝えるということは比較的できるかもしれないんだけど、自ら伝えようという、そういう思いがもし必要だと考えたならば、これは本当に主体的に自分から動いていくような、そういう子どもたちを育てていかなければいけない、という思いがあります。要するに、これだけ用意した、さあやってみろという受け身から、自分たちで何かやってみたいなという、去年も話が出たかもしれませんが、例えば大学生とか高校生とかが、登呂遺跡でどんなことができるかな、というような、自分たちで企画して運営していくような、そうすると、その対象が例えば小学生や中学生だとか、そういうのを対象に、大学生や高校生が企画・運営したようなものを進めていく。企画・運営した子供たちは、当然、主体的な意識は出てくると思うし、この子供たちが将来の担い手になっていくと思うのですよね。少し長いスパンで考えた時に、そういう主体的な意識というものを、何かしら学ばせていくような、いわゆる、薪プラス火をつけていくような、何か要素を大事にしたいな、そういうふうに思っています。以上です。

山岡会長

ありがとうございます。自分から関わって体験するような要素があった方がいいんじゃないか、ということで、例えば運営とか企画みたいなことに関われないか、というお話があったのと、あとは思ったのですけれども、体験学習の中に、そういう創意工夫をしなくていけないようなことを組みこむことも可能かもしれない、ということですね。ありがとうございます。他にご意見はありますでしょうか。

弓削委員

お世話になります。「まちなびや」の弓削です。今の杉山先生のお話を伺って、

本当にその通りで、自分がここで何をできるかな、というのをまず考えてみる機会がすごく大事だな。何かできそうというそういうスタートで、ここの財産を活かして、自分だったらこんなことができるかなとか、こういうのをやってみたいというスタンスをやらせてくれるという何か、そういう企画があればすごいなと。

今なぜこんなことを言うかという、実は私、「子ども十円商店街」というイベントを企画するのですが、コロナのことがあり、今年は全然出来なかったのです。たぶん来年もできない可能性が高い。じゃあどうしようか、ということを一生涯懸念考えています。できるやり方を考える、その中で静岡大学のサークルで、子供向けの遊びをやっているグループがあり、そこも今何もできなくなってしまったと。学校に行く企画もあったけれど、それもできないし、自分たちで楽しい遊びの企画を、代々何十年も続いているサークルさんでやってきたのだけれど、それもできなくなってしまった。それで、ご縁があって知り合ったので、じゃあオンラインを使いながら、でも、できるだけ実働できる機会も考えながら、どうするかを一緒にこれからちょっとやりましょうか、という話になったのです。こういう人たちがいると、今すごく登呂は広くてせいせいとしていて、人との距離のことを考えてもいい場所だし、ここで何か遊び企画をやれるのだったら、大学生さんたちも新しい発想で、これまでは自分たちのところで段ボールとか使って、何かを作ってゲームを考えていたけれど、登呂という舞台を使わせていただけるのであれば、また何か違う遊び方が発見できるかもしれないし、そうやって楽しかったな、と企画者も思うし、参加者の子どもたちも思ってくれたら、それがまた親しみを感じることにもなって、次の企画に繋がっていくのではないかなと思ひまして、何かどこかにはそうやって、「こういうことをしたいな」という人がいるので、そういう人たちをうまく取り込むような企画を考える企画になってしまうのですけれども、そういう形で少し関わる人が入るということもありなのかな、と思ひました。

山岡会長

ありがとうございます。色々な活動をされている方が静岡の中にいらして、登呂を活用することができるかと分かれば、という人がいるということですよ。分かりました、ありがとうございます。他にご意見ありますでしょうか。

石亀委員

度々失礼します。今のお話の中で、登呂公園、登呂遺跡を有効活用するという
ことについて、昨年10月4日に、静岡新聞に吹奏楽のイベントをここでやっ
たということで、さらにこれをもう少し発展をさせていきたいという思いもお
持ちであるということで、これが今浜松ですと、ジャズフェスティバルという形
で動いているのですけれども、これは浜松だけでなく、今静岡にも、静大の吹
奏楽、各中学の吹奏楽部の方々、非常に熱心に練習して、今どういう発表をしようかという場所づくり、それを求めて練習をしている、高校生も含めてね。この
8月には毎年、グランシップで静岡県のフェスティバルをやっているのですけ
れども、一般の学生はなかなかそういうところには出られなくて、非常にこの広
大な登呂公園、この中の一角をそういう譜代づくりに活用できたらと思います。
ただ一つ問題は、野外でやることになる、天候のことが一つ非常に問題になっ
て、計画は日を変えられないという問題もありますので、ただここで、雨の日も
できるような、簡単に取り壊しができるような、カメラで防げるようなものが
できるかどうか、またこの公園の一角をそういうイベントづくりのための場所を
用意できるかどうかということですね。そういう風に私も思っているのです
けれども、非常にもうこれは是非頑張って続けてもらいたいと思います。このよ
うに思っています。

山岡会長

ありがとうございます。今、「親しむ」や「関わる」に関する話になっていき
てはいるのですが、せつかくこういう話になっているので、博物館の方にお聞き
したいのですが、そのように関わっていくこと、募集とかはこれまでしていたこ
とがあるのかということや、施設利用のことを色々おっしゃっていましたが、そ
ういう可能性について教えていただけるとありがたいです。

事務局

関わるについての募集は、あまりやってないと言ったらあれなんですけれど
も、例えば、登呂博物館のボランティアとして募集して、それに学生さんが応募
してきたりだとか、そういったことはありましたけれども、今回関わる人という

ことで言いますと、先ほど言った吹奏楽部の方が、こちらに足を運んでもらうために、田園コンサートを企画したりだとか、あとは水田を作るボランティアとして、今年学校単位で来てもらったり、そういった形で募集というか、繋がりを持ってもらっています。

山岡会長

私、前のことで記憶があれなんですけれど、吹奏楽部の経緯は、場所の提供を募集したわけではなくて、何か登呂博物館の方から働きかける形で行われたのですか。

事務局

元は、去年の4月に吹奏楽のコンサートをやりたいということで、まず博物館の方から企画をしました。ところが、その時期にちょうど博物館が休館に入ってしまったので、それで中止になった。その後、休館が終わった7月に、今度は学校側の方から、ぜひ吹奏楽のコンサートをやらせてほしいと申し出がありました。それで7月にコンサートを開いたという形になります。

山岡会長

ありがとうございます。話の続きで、場所の提供みたいな募集は、これまでしてなかったということですが、それは可能性としては、いかがなのでしょう。色々な市民の方たちが何か自由に使えるような枠組みを作って募集をかけるというのはできるものなのです。

事務局

可能だと思います。その話になると、今日のシビックプライドということを使うよりは、もう一つの方の「誘客」に繋がってくるかと思いますが、今年やった「はびままカフェ」というところで、お母さんたちの団体が、「マルシェ」という、手工芸品、作ったものなんかを販売したりとか、そういったものを、お店を出して売るようなイベントをやったのですけれども、将来的には博物館で、誰々に声をかけて来てもらう、例えばそういうイベントに参加してもらうというよりは、だんだんこの登呂遺跡の広場が、皆で使える広場だよ、ということが認知

されてくると、そこを今度使わせてくれないかという申し出がだんだん増えてくるという状態を目指しているわけです。

また脱線しますけれども、表の博物館広場、これから2月、3月にかけて芝生化の工事をやるのです。その芝生化の工事の目的というのが、もともと砂埃が立ってしまうようなことがあったものですから、これが全部芝生の広場になれば、イベントもやりやすいし、もちろん美観上も美しいですし、貴重なイベント会場としてだんだん認められるように、その取り組みとして、その芝生の工事をやる予定です。

山岡会長

ありがとうございました。今話が「親しむ」「関わる」の方にっていますが、「学ぶ」ということで、話を一旦少し戻しまして、ご意見のある方いらっしゃいますでしょうか。もしもないようでしたら、このまま「親しむ」の方に話を移していこうと思うのですが、「学ぶ」のことであればお願いします。また後で言っていただけでもいいのですけれども。ここから少し、今もうすでにその話題に入っていますが、「親しむ」ということで、登呂遺跡や登呂博物館を身近な場所と感じ好きになっていく、そのためにどんなことができるかということでご意見のある方お願いいたします。

上原委員

ずっと考えていたのですけれども、価値があるから愛着がわくというよりも、愛着が先なのではないかな、という感じ。意味ある場所だから愛着がわくというケースよりも、今日バスで来たので、そこの前の広場を通ってきたのですけれども、子どもたちがワーワーワー騒いでいて、どうも氷が張っていたらしい。それで、「おばちゃん、ここすごいんだよ、すごいんだよ」と言ってくれた。多分、これっってもう愛着スタートしているよな、と思ったのですね。ちょっと話が飛びますが、以前テレビで、駿府城公園が映った時に、うちの子が、「ああ、ワールドカップやっているところ。大道芸、大道芸のところ」と言ってすごい食いついたのですね。そのまま歴史の話も一緒に見ていたというところで、やはり「愛着がある」「下地ができてい」と、プライドというか、色が乗りやすいというか、発色がよくなる形で、先ほどから皆の場所として使いたい芝生化というのが、と

でもすてきだなと思っていて、やはりそういった愛着がある場所としてポテンシャルが高いと思って、例えば空き地だって、愛着があるとそこはすてきな場所になるわけですから、そこに歴史的価値とか、遺跡としての価値を後で見つけていく、というようなイメージを持ちました。

山岡会長

ありがとうございます。もっと広い意味で魅力というのは幅が広くて、皆が来られる場所になる、ということも魅力と価値の土台となっていく、下地になるということですね、ありがとうございます。

木村委員

木村です、お世話になります。今、小学校、中学校、高校もそうなのですが、このコロナ禍で、イベントがみんな自粛だったり、中止だったり、延期という結果、中止という形で、何もできない、我慢ばかりしている状況で、一年が経とうとしております。私もここの近所に住んでいて、本当にこの広いエリアを見るたびに、ここで何か色々できたらいいな、と思いながら毎日いるのですけれども、今まで屋内でやっていた、そういう子供たちの行事を、場所を変えて広い所で、例えば野外コンサートとか、音楽の授業は難しいのですが、合唱とか、そういう形で今まで狭いというか、限られた空間でやっていたものを、ちょっと広いところでやれたらいいな、そういう風に活用してもらえると嬉しいな、という気持ちと、あと先ほど大道芸の話が出たのですけれども、私は、ずっと大道芸のワールドカップの実行委員をやっている、色々なポイントで活動していたのですけれども、ポイントが駿河区はないんですね。アピタのところで、サテライトポイントという形でやって、一応静岡のイベントと言ってはいますけれども、どうしても葵区の市街地と、駿府城公園のイベントみたいな形になっているので、何とか駿河区の方にも人の波が欲しいね、という話がずっと前から実行委員会の方にも出ていて、その中で今回芝生化されるということと、これだけきれいな広い敷地があるので、是非今後、大道芸ワールドカップで、登呂遺跡ポイントとして、そういう演技ができるポイントとして使えるように、うまく企画を出してもらえたら、地元の私たちとしても行きやすくなって、楽しみが増えるかな、そんな形で登呂の魅力を知ってもらえるいい機会になるのではないかと思います。

いました。

山岡会長

ありがとうございます。確かに、駿河区の中でも拠点になるというか、そういうことの、ということなのですね。ありがとうございます。他にご意見ある方いらっしゃいますでしょうか。

北川委員

先ほど上原様のお話を聞いて、愛着があつて価値があるというお話で、やはり遺跡を見に行こうって、なかなか壁があり、休みの日にお金を払って行こうとかって、小さな子がいるとか、必要感があれば行くのですが、気楽に行こうっていう感じではなかなかないかな、って。色々なお話聞いていると、気楽に来られるっていうのがいいのかな、ということで、自分が思ったのは、よく最近のニュースで聞くのは、図書館が TSUTAYA と手を組んでとか、スターバックスを誘致してとか、そういうのがあるじゃないですか。例えば、緑豊かな芝生のきれいなところに、オープンカフェみたいなものを用意して、簡単な遊具とか、8月の登呂の中でやった遊びみたいなものがあれば、駐車場が無料になっていればもっといいと思うんですけども、本当に気楽に来ると思うのです。来て発見して、その中で愛着が生まれて、昔、前にもお話したと思うんですけども、教科書で学ぶので知らず知らずのうちに僕らプライドができていたんですけども、今教科書になかなか載らない状況があつて、そこは、やはり来てもらって知ってもらうのが、一番手っ取り早いのかな、って思ったところです。以上です。

事務局

ご意見ありがとうございます。今年、広場でイベントとして色々やってきたことが、もともと私たちとしては、集客のためにイベントをやると思っていたことが、今までご意見伺うと、かえってそれが一つのシビックプライドというか、親しみを持ってもらうことで、シビックプライドの醸成にも繋がっていたんだなあ、と改めて気づかされました。カフェなんですけれども、説明を補足させていただきますと、田園コンサートの時に、青空カフェと言いまして、カフェをやる

業者さんに声をかけて、出店してもらっています。コーヒーやピザを出すところ、そういうキッチンカーに、田園コンサートの時に合わせて出店をお願いして、計8回くらい出店してもらっています。それと、去年実験的にやった事業が、中央図書館の移動図書館車に、広場に来てもらう、「本の広場」という名前を一応付けたんですけども、移動図書館車に広場に来てもらって、ピクニックシートを用意して、そこで絵本を読んでもらうという企画をやりまして、ただ、宣伝が足りていなかったのか、思ったほど人がたくさん来るとい感じではなかったんですけども、それでも約60名くらいの方々が利用されましたけども、屋外で本の読み聞かせを聞いたりだとか、そういったものをやりまして。その時も、キッチンカーと一緒に来てもらって、コーヒーを飲めるという企画をやりました。なので、気楽に来てもらって、そこでコーヒーが飲めたり、簡単な飲食ができるっていうところも、だんだん周知していければな、と思っております。

堀切委員

常葉大学の堀切です。まったくの思い付きですので、全部聞き流していただいたらいいんですけど、最近キャンプがブームだそうですね。本当に思い付きで無責任なんですけど、登呂遺跡でキャンプができれば楽しいかな。多分、キャンプやアウトドアやっている方は、すごい情報発信が強いんですね。ですから、カフェとかマルシェができるのであれば、キャンプの管理をされる業者さんなんかもいらっしゃると思いますので、そういうところに一区画くらい、一カ月くらい貸し出して、業務委託でキャンプを一カ月くらいやらせるとかですね、そういうのもありかな、と。本当に思い付きですけど、聞き流してください。

山岡会長

ありがとうございます。夏に富士山こどもの国に行ったら、キャンプができて駐車場からリアカーを引いて登っていける感じになっていて。すいません、思い出したので話してしまいました。他に、何かご質問ある方いらっしゃれば。

渋江委員

渋江です。私がスマートフォンで調べて、調べ間違いでしたら、これからお話しする意見は取り下げます。お話を聞いている中で、登呂遺跡というか、芝生化さ

れるようなエリアも含めて、そうしたところで気軽に来ていただいて、何か自由にできることがあれば、市民がやりたいことをその場所で自由にして、それで愛着を、価値に気付いていく、知るということが語られていたな、と思って、「登呂遺跡」でインターネット検索をした時に、私の検索で一番最初にヒットしたのが、「登呂博物館」って出てきて、登呂博物館の中に遺跡の説明があつて、それは重要なことなんですけど、それと逆パターンの宣伝の仕方というんですかね。このエリアの魅力みたいなものを発信しているものはあるのかな、と見たら、観光の案内みたいなものがあるんですけども、それ以外の形で発信しているものが見当たらなかったの、登呂の遺跡のあるエリアってこんなところで、こんなふうに気軽に使えて、というような発信の仕方もあるといいのかな、と思った次第です。パパッと調べたので私の調べが間違っていて、すでにちゃんと遺跡のこと今皆さんが語られていた趣旨でPRするようなサイトがあったようでしたらごめんなさい。私の調べが足りないということです。以上です。

山岡会長

ありがとうございます。いかがですか。ホームページとか、その構造に関わることなのかな、と思うのですけれど。

事務局

たしかにご指摘のとおり、博物館のウェブサイトに入ると遺跡の紹介がされているんですけども、遺跡単独で魅力を発信してこなかったと思います。遺跡と言いますと、単にうちの博物館だけじゃなくて、芹沢美術館があつたり、一つのエリアとして、行革審にありましたけども、登呂エリアの中に遺跡・博物館・美術館・水田があつて、というような発信の仕方を研究してみる必要があるのかな、と今感じました。ありがとうございます。

堀切委員

それは登呂博の仕事じゃないと思いますね。市の企画課なり観光課なりの仕事じゃないですか。ついでだから言いますが、市政、市の施策全体として、登呂博なり登呂遺跡なりが非常に軽んじられているんじゃないか、という気がするんですね。例えば、静岡市の文化振興計画を昨日久しぶりに見たくなくて見

たら、登呂遺跡のことほとんど書いてないですよ。主要事業とあり、駿府城主とか、東静岡とか、三保とか清水とかあるけど、登呂のことがないんですよ。だから、それは市の方で、ホームページの展開はもちろんですけど、それはやっていただかないと。これは前回もお話したことなんですけど、博物館って行政の末端の問題じゃないと思うんですけれどね。

渋江委員

すみません、私の発言では取り下げてください。ここで議論することでは確かにないと思うのですが、ただちょっと感じた中で、遺跡エリアに来てもらうことでこちらの魅力を発信として考えたときに、今言ったこともあるのかな、といった程度で、それを登呂博物館で引き受けるかどうか、ということは別の問題ですので、すみません、取り下げてください。

堀切委員

今、取り下げるという話をいただいたんですけども、そういうことではなくて、私達の方も先ほどのこのカラーのところ、登呂エリアというようなところにもっと注目を集めないとまずいよね、っていうところが、市の審議会っていうか、行財政改革というところで、普通行財政改革って基本的には、「これをやめましょう」っていうのが主なんですけど、これ逆なんですよ。ここで今まで十分活用できてないので、「もっと活用するようなことをやりなさいよ」という、そういう方針が出たという、そういうようなところなんです。それで、そういう答申がされている中で、今渋江先生がおっしゃっていただいたように、今行政の仕組みとしては、「登呂博物館が登呂遺跡のことを発信しなさいよ」という仕組みに静岡市はなっている。だけど、「そこも含めてそれではもう少し広いところでその辺を考えないとだめじゃん」ということを言われておりましたので、逆に言うと、今渋江先生おっしゃっていただいたように、登呂博物館だけがそれを発信するんじゃなくて、ちゃんと関係しているところで、逆にホームページを作ってそれで発信していくとか、そうしたことも私達今回こういった意見をいただいた中で、それらが行政のに反映できる可能性もありますので、取り下げるのではなくて、逆にそれを強く言っていただいた方がいいかと思います。

渋江委員

すみません、ここの議題にしちゃうとちょっと違うのかな、と思うので堀切先生がおっしゃったように、行政の課題と言いますか、そういった形で静岡市として、登呂エリアというものをどんな風に発信していくか。その中でもしかしたら登呂博さんが、エリアに関わってきた蓄積なんかも、うまく情報提供して発信していく、そういうことかなあ、と堀切先生のお話伺いまして改めて整理しましたので、すみません、認識が整理されていないまま話してしまって申し訳なかったのですが。では、今言ったような形で…。

堀切委員

はい、入れていただくのは全然かまいませんし、逆にそういうふうには、私達も、そういう意見もあるということの方が、私達にとっても、今までの博物館の中だけで今こういったことを議論していくということでは、やはり広がりがかつとないので、是非言っていただいて、私たちのほうにコミットしていくというようにしたいと思います。

山岡会長

ありがとうございます。かぶせるようで申し訳ないんですけど、行財政改革の中で、もっと市の中で位置付けていく広い視野からということだと思んですけど、先ほど最初の方で議論があった、学校との関わりですかね。そうすると教育の中でも、市の中でももう少し上のレベルで取り上げていただけたらいいのかもしれないな、と思いました。

それでは、今、「親しむ」というところでお話をさせていただいていますが、他にご意見ある方いらっしゃいましたらよろしくお願いします。それでは、「親しむ」はなさそうですので、あればまたご発言いただければと思います。

それでは、「関わる」ということについて、今「関わる」の話もかなり出てきていると思いますが、「関わる」というところで、アイデアやご意見などありましたら、お願いします。今「関わる」の話も出ていると思うので、ご意見があればいただきたいと思うのですが、「その他」のことも含めてアイデアがあればご意見いただきたいのですが、お願いします。

石亀委員

「関わる」というところで、私が静岡市の福祉高齢課から社協に依頼して、S型サービスという事業をやって、市内で350カ所くらい高齢者を集めて健康づくりをしているわけですが、健康づくりの中に、例えば音楽が入ったり、講師が来て色々話をしたりしてくれているんですけども、私も中田本町の会をしばらくやっていましたので思ったんですけど、博物館が一番大事にしている土器、土器のレプリカでいいから、そういうものをだいたい50人くらい携わっているんですけども、この時代によって「縄文の土器はこうだよ」、「弥生の土器はこうだよ」とか、「古墳時代の土器はこうだよ」とか、そういうわかりやすい物を持ってきてもらって、高齢者に「こんなことが登呂博物館には収蔵されている」というようなことを、実際に目で見せて、そこに少し時代背景を添えていただいたら、それがうまくいけば広範囲に、色々博物館による文化財の発信ができるんじゃないか、と思っています。それにどういうふうに活用したらいいか、人の問題もあると思いますから。それから、各社会福祉協議会に言えば、どこがどの程度活躍できるか、ということが分かるので、そういうお話しがまずできるかどうか、ということと、それから時間が限られている中でやっていきますので、例えば30分くらい時間もらいたいとかいうことで、現物・本物を持ってくるわけにはいきませんので、レプリカでいいと思いますけれど、こういうものを実際に高齢者に見せて、それでその口コミによって、この博物館のPRができれば、子どもたちや孫たちに繋がっていったら、そういうふうに思っているんですけど、そこら辺のことも参考にさせていただいたら、と思っております。

山岡会長

今のところで一回切ってお聞きしたいと思いますが、高齢者の方や学校とかになるんですかね。色々文化財で出張して、ということは県などで行われていると思うんですね。そういったことは静岡市では今はないですかね。仮にそういうことをやる余裕があるのか。そういうことを少し教えていただけると。

事務局

制度として出前講座という静岡市役所全体で色々プログラム組んでいまして、申し込みがあればそれぞれの課でやっている事業について、職員が出張して講

演をやる、というのをやっております。博物館でも今まで年何回か色々な団体のところに出向いて、そういう出張講座みたいなものを行っているんですけども、前回もご指摘いただいたと思うんですけども、出張出前講座は、あくまで市のホームページに書いてあって、それを見た人が電話で申し込む、みたいな流れになっているんですけども、もうちょっと積極的にこちらの方から打って出て、例えば、何分間でこういうプログラムを用意して、例えば土器のレプリカをもって説明しますよ、みたいな形で、売り込みに行くといったこともやってみればいいのか、と今考えています。そのためには、やはり学芸員が時間を作ってそういう申し込みがあれば対応していく、という形で準備していかななくてはならない、と思うのですけれども、博物館からむしろ外に打って出ることもやはり必要なのかな、と思っています。

山岡会長

ありがとうございます。

石亀委員

今のことに付け加えて、高齢者というのは、歴史に興味を持つ方が非常に多いわけですね。私も何回も言ったんですけども、例えば、静岡の扇状地がどういうふうにしたとか、非常に安倍川の動きも変わっていますので、そういうことも含めてお話をいただけるとか。つい先日の静岡新聞に、原生人はいつ日本に来たかと。これは、山本先生の分野になると思いますけれども、日本にいつ、一番元の間人が入ってきたとか。石器時代、今から3万年8千年前には入ってきているというようなことが書かれていますけれども、愛着ということも含めて、静岡がどういうふうにしたとか、弥生の文化が、どういように発祥したのか、ということは非常に市民にとって楽しむことができる話になると思いますので、そういうことを含めて、是非静岡の生い立ちというものも館の中に発信する場所ができれば、と思っています。

山岡会長

逆に私から質問させていただきたいのですが、高齢者の方たちにそういう機会があったほうがいいのかということなんですが、例えば、印象としては高齢者の方

は結構興味がある方多くて、実際。博物館にいらっしゃっている方とか、あるいは市の講座とか、割と行っているようなイメージがあるのですが、博物館から出て行ってやるようなこと、機会を作ることで、もっと興味を持つ方がいらっしゃる、ということですかね。

石亀委員

そうですね。そういう話には非常に乗ってくると思います。

山岡会長

仮に積極的に動かない方でも、そういう話をすると「ああ、面白いじゃん」ってなるんですね。

石亀委員

そうです。実際に郷土史を研究している方々は各地区に結構いるんですよ。そういう人たちは、それぞれの場所で、昔はこうだったんだよ、という話を結構するんですけども。やっぱり非常に皆興味を持つっていうか。

山岡会長

わかりました。ありがとうございます。

今、「関わる」の話になっていますが、その他、今までの「親しむ」とか、「学ぶ」というところでも、ご意見や質問などありましたらお願いします。

上原委員

以前、三保第一小学校の校長先生にお話を伺ったことがあるんですけども、三保の子どもたちは、静岡市の葵区の子どもたちが三保に社会科見学に来た時に、自分たちで、小学生が小学生をガイドする、というお話があったんですね。やっぱり語るためには知らなきゃいけないので、とてもいい交流があって、そして自慢げだった、というお話を聞いて、「なるほどなあ」と、愛着は人に語ることで余計大きくなると思います。

かつ修学旅行に、今はコロナですけど、東京に行った際に、上野の人に、上野の西郷さんのあたりで野に放って、三人に「三保の宣伝をして来い」ってミッシ

ョンを課すらしいんですね。そうすると、最初はもじもじしているんですけど、「三保ってすごいんですよ」とか、「富士山がきれいなんです」というのを、とても誇らしげに語るというお話を聞きました。なので「関わる」ということで、例えば地元の小中学生が、山梨や長野から来た修学旅行の生徒さんたちに自分で語る、そういった関わりで、地域間交流も生まれるとは思いますが、自分たちがより語ることで、誇りっていうのが生まれるんじゃないのかな、と、そんなふうに思いました。

山岡会長

ありがとうございます。そういう可能性はいかがですか。修学旅行で来た生徒さんと交わると。

北川委員

可能性はあると思います。私、前任校梅ヶ島小中学校だったんですが、梅ヶ島の魅力を東京に行って伝えてこようってことで、神楽ですとか、梅わさびについて話をしてくるということをやしまして、実際、小中学校9年間でわさびづくり体験やわさび漬け体験などはカリキュラムとして組まれているわけですね。先ほどの総合的な学習の時間に。高松学区も4校で小中一貫校が令和4年度から始まるんですが、その中に登呂をどう組み込めるのかというところが、意外と実は難しく、発達段階もあって、中学生としての発信の仕方と小学生で学ぶべきこと、その再編成が意外と、単純に登呂一本で9年間貫くというのは、結構難しいな、っていうのも、実は今話し合いをしているところなんですけれども、あるというのが現状です。でも、地域に愛着を持っておもてなしをしたり説明したりするというのは、とてもいい機会になると思います。

ただ、残念なのは、高松学区はお膝元なので非常にやりやすいんですが、例えば葵区のお子さんはどうなるかと言うと、また違った視点になるというので、全市的視野にはなりづらいのかな、というところはあるかな、というふうに思います。

山岡会長

ありがとうございます。前の協議会の時、ここがまた出会いの場になっているのもいいんじゃないか、という話があって、それも思い出したんですが、実際に

なんとなく、相手方が修学旅行で来るということと、こちら側もそれ合わせないといけませんよね。それは結構調整が難しいんじゃないかという気もするんですが、そういうのは、例えば登呂博物館が間に入って調整することになるんですかね、そういうことをもしやるんだったら。どんどん仕事の難易度が。でも、そういうアイデアもあるんですね。ありがとうございます。他にお願いします。

弓削委員

先ほどの石亀様の話で、高齢者の方に「学び」というところが出た時に、私、今生涯学習のみのり大学さんと関係があったりするので、高齢者の方が1年間で何回も、ほんとは多分十何回だったけど、今年はだいぶ減らされて限られた回の講座を学ぶというプログラムがあって、去年までは生涯学習センターごとで受けられるものをグループで選べるような要素もあったと。今年はそこができないので難しいという話は聞いたんですけど、なのでこのエリアの生涯学習施設さんと何かコラボされてる企画があったら教えていただきたいな、ということと、私の印象では、そういうところに出てくる方は比較的元気で、まだ誰かのために何かやりたいという結構アグレッシブな方が多かったので、そういう方はもしかしたら、ここの応援団にもなってくれる可能性があるのかな。要は学んだことを来てくれた子どもたちに伝えるとか、そういうことは今後要請すればですけど、出張する時に、それこそプログラムがしっかりできていれば、それに沿って土器の説明をすとかまでは、30分くらいだったら何とかできるとか、そんなこともあるのかな、と思ったので。

事務局

ちっちゃ展のチラシがありましたよね。その後ろの真ん中の方にあるんですけども、これ実は実現しなかったんですけども、南部生涯学習センターと企画展関連イベントで、「親子で参加しようちっちゃ作り」ということで、南部生涯学習センターさんの方で企画してもらって、こういうちっちゃな蛍光粘土という、光る粘土で作るミニチュア土器作りの講座をやる予定でいました。ただ、これが1月23日ということで、土器だとどうしても距離が密になって手で触れてしまう可能性があったもんですから、この時期ご存知のとおり、県で警戒レベルが高まった時期であり、これ実は中止になってしまったんですけども、こう

いう地域の生涯学習センターとの連携やコラボは、そういうものはこれからや
っていく余地が大変あると思っています。

山岡会長

ありがとうございます。

北川委員

「関わる」とはずれるかもしれないですが、コロナの時代で、なかなか県外に
行くことも憚られる時代に、博物館同士の繋がり、例えば静岡市民が静岡市内
にいて、なかなか訪れることができない日本全国の博物館と連携をして、お互い
に所蔵物をレンタル・貸しあって、定期的に日本中の色々なものがここで見られ
るという状況があれば、わざわざ県外に行かなくてもこちらで学べるというこ
とであれば、何度も何度も興味がある方は足を運んでくれるのかな、と思いま
した。アイデアです。

山岡会長

ありがとうございます。企画展などではそういうことも意識されて、これまで
やってこられているんですか。

事務局

去年、富士市との共同の企画がありまして、お互いの企画展をリンクさせて、
その時は、両方の企画展でスタンプをもらおうと記念品をもらえろという企画を
やったんですけども、内容もリンクした内容で企画をやっていたということが
ございます。

山岡会長

他、今回の企画展を見させていただくと、山梨県の資料が結構来ていて、今回
は山梨県が多かったですけど、意識的に北斗市の資料が今回使われていたんで
すけれども。

事務局（國島）

そうですね。私、企画展担当をさせていただいたんですけれども、講演会の内容が縄文が多かったので、縄文のものを集めようということだったんですけれども、実際に借り入れる調整をしていた中で、どうしても緊急事態宣言の中で動ける地域が限られていましたので、山梨でしたら縄文王国山梨ということで取り合っていていただきますし、隣の県でもあるので是非縄文のものを、ということで交渉しましたら、ご快諾いただけましたので、山梨のものを中心に集めたという形になります。

山岡会長

ありがとうございました。企画展などでは、企画展の趣旨に合わせて他から借りてくることがあると思うんですが、今先生がおっしゃられたように、他のすごいものを持ってきて静岡の方に見せるというアイデアからいくってこともありってことですかね。

北川委員

確かに、他の博物館との交流を今いろんなところでやり始めている。ですから、私たちの方も、そういうことは可能である。それから、元々はこの登呂博物館と大阪の弥生博物館、それからいくつかと協定を結ぼうって話があったんですね。そうしたのが、色々な関係の中で潰れてしまっています。大きい構造は難しい部分がありまして、それは何かって申しますと、登呂博物館の今持っている所蔵品ってというのが、重要文化財指定されてしまっていて、重要文化財指定されると、動かすことに非常に制限が出てまいります。ですから、そういうものでなくやっていくということがまず1つ大事。そうすると、登呂博物館が持っていない、静岡市の他の資料を、登呂博物館の職員が把握しないと、交流がなかなかできない。ですから、登呂博物館の職員の人的なパワーアップ、バージョンアップがまず1つ必要になってきますし、あとうちの本館の方の職員のバックアップというのが必要になってきますので、そういったことができるようになっていくと可能かと。先ほど館長の方からお話がありました、富士市との提携というのは、お互いの博物館同士で職員同士が連携する、ということを確認できたのでうまくいく、というところがありますので、片方から勝手に言ったからできるか、っていうその辺の信頼関係みたいなものも必要になってきますので、これは徐々に、

色々なところの物の貸し借りというところの中で実績を作り、信頼関係を作っていく、というところで将来的には進めたいと思っています。

山岡会長

色々な地域から借りてくるためにはこちらも貸し出せるような、お互い様の関係を作らないといけないということですね。わかりました、ありがとうございます。他に何かご意見は…。

石亀委員

非常に今日は広範囲ないいご意見をたくさん聞かせていただきまして、今の北川先生の体験談、本当に素晴らしいな、と思って。私も美術に非常に興味があるものですから、この人の絵が来る、というところでもどこでも飛んで行っちゃうんですけど、要は、今色々素晴らしい意見がたくさん出てきましたけれども、これをとりあえず市民に、どう発信するか、各家庭に、例えば子どもさんを通じて家庭に届けるとか、自治会を通じて届けるとか、これがやはり受け止める人と発信する人との、この温度差が非常にある中で、いかにこれを、電気なんかもそうだと思いますけど、届くまでかなりの電力を失ってしまう、ということが現実なんですけども。今、ここで出た話を本当に静岡市民に、できれば隅から隅まで、とりあえず来る来ないは別にして、こういうこと、先ほど、非常に館としては、企画展であるとか、講演会であるとか、関連事業っていうのをものすごくたくさんやってるんですよ。これが残念ながら、我々の家庭に届いてこない。これが一番私が残念に思っているところです。ここを太くすれば、今、館の方で一生懸命やっている細かいことも含めて、静岡市の隅々までどうして届けるか、これは市も含めてやらないとできないことだと思いますので、そこを是非行政含めて、色々なケーブルを使って、ここを何とかしてもらいたい、届くように。市労連使っても、自治会使っても途中で切れてしまうことがありますので、ぜひここを、一番大事なところを見落とさないように、よろしくお願いします。

山岡会長

ありがとうございます。今お話いただいたことというのは、先ほどから色々意見が出ていて、例えば先生が端末を使って情報を出したらどうか、ということや、

ホームページなどをもう少し情報提供できるようにした方がいいんじゃないか、ということと関連したことだと思うんですね。私が思ったのは、「その他」のところ、情報の伝え方の要素を加えてもいいのかな、というふうに思いました。それで、それと関連したことで私の方からご質問があるんですが、そのやっぱり情報の伝え方というところなんです、今おっしゃっていただいたように、企画展とか様々な事業をなさっていると思うんですね。それで、それが事業としては、年間スケジュールの中に体系化されていると思うんですが、多分それぞれの事業に目的があって、伝えることの目的があると思うんですが、そういう伝えることの目的とか、そういうことは博物館でどのように整理されているのか。例えば、企画展だったら、いくつかの種類があると思うんですよね、地域のことを知っていただくとか、あと一般の方の入り口になるようなもの、とか。あとお子さんを対象にしたりとか。そういう博物館として伝えたい内容、そういうことは概念で整理されているのかお聞きしたいな、と思ったんですが、ちょっと抽象的なことで…。

事務局

うまく答えられるかわかりませんが、先ほど説明したとおり、それぞれの企画展には、やはりテーマがありまして、伝えたいことというのがまずあります。それに沿ってまず学芸員が企画展のあらすじ、ストーリーを伝えるものになると思うんですけれども、あらすじがあって、どんなものを、所蔵品を借りてくるかという見立てがありますので、まず企画展ではそれぞれテーマが持ってそれを伝えるのが目的でやっておりますので、それがうまく伝わっているかどうかというところが課題になっているのかな、と思っておりますけども。

山岡会長

なんでそんなことを言い始めたかということ、どういう目的、何を伝えたいかが、ちゃんと整理されていた方がいいんじゃないかということと、それがちゃんと持続する、継続するということが重要なような気がして、それぞれの目的を持った展示を毎年されていると思うんですね。そこで、どういう点がよくてどういう点が悪かったとか、ここはすごい皆食いついたぞ、というのが継続して検討されることが重要な、と思うんですよ。

私事の例えで話させていただくと、私大学で15回の授業をしていて、毎年内容を変えないんですよ。だけれども、毎年やっていく中で、学生さんから色々反応をもらう中で、同じ内容であっても、伝え方が異なることによって、授業の効果が全然変わってくるというか、やっぱ連続性が大事な気がするんです。なので、それぞれの博物館でされている伝えたいことの目的というのを、もうされていると思うんですが、明確にしてそれをその継続的にその、発展させていくというか、当然もうされていることだと思うんですが、どうかな、と思ひまして。

事務局

いえいえ。すみません、今即答はできないんですけども、まず、先ほど「その他」の中で伝え方の項目をいれたらどうかというご意見をいただきまして、まさしくそのとおりで、と思ったんですけども、今までだって色々な提案が伝わらないことには、提案の効果が発生しないわけで、それで今先生がおっしゃっていた、企画展とかでこういったことを伝える、というものを、コンセプトを明確にして、しかも企画展をやった後に、それがきちんと伝わっているかどうかというのを検証していく、というところが確かに必要だと思います。アンケートとかで意見を募るとかはもちろんやっていますけれども、そこから先に踏み出す、アンケートもあってそれを反省していくかどうか、というのではなくて、博物館としてこういったことを伝えていきたいというような、一種の大きなビジョンみたいなものもあって、それに沿って企画展を組んでいくみたいな、すみません、今上手くまとめられないんですけども、そういった考え方も必要かな、と思ひます。

山岡会長

ざっくばらんにもう少し言わせていただいてもいいですか。思ったのは、登呂博物館は色々なアイデアが出て面白いと思うんですね。それで、ただ異動があつて皆さんが入れ替わっていく、というのがあつて、そこが難しいところのような気がするんですね。色々な蓄積をどうやって継続していくかという。僕さっき話した授業の話だと、僕一人だけの話なので、それを自分の中で考えてやればいいんですが、それを色々な方たちが継続させるということが重要になるかな、という

のが1つ。企画展も毎回色々な企画を立てていただいているんですが、例えばほぼ同じような企画展をやってもいいんじゃないか、と思うんですよね。毎回新しいものを生み出すのは結構大変というか、同じテーマの中でずらしたものをやってもいいかもしれないですけど、本当に、これはうけたぞ、っていうので、あともう少しここを改善したらいいんじゃないか、っていうようなことがあれば、またちょっと2年後3年後にやってもいいかな、ということも思ったりしました。実際行きたいなと思っていても、忙しくて行けないこともあるのですよね。それで、やってくださっていいのかな、と思いました。すみません、色々バラバラなことを言ってしまいました。

事務局

今、言っていたことが、1つは指定管理というものが博物館の中でやられている部分もあるんですけど、そうしたところに関連するような、静岡市としては、登呂博物館を指定管理に出すという方向を、出している。これはなぜかと言いますと、やはり博物館での技術、知識の蓄積とか、指定管理の場合は5年更新で、業者さんがすごくいい企画展が時々入ってくるかもしれないですけど、それが続いていくかどうかわからない。そういったことで、1つはなかなかまだ、あるいは登呂博物館は発展途上のところが私は実際あるというところの中で、皆さんに色々な意見をいただいて、それらを取り込みながら良くしていきたいんですけど、学芸員の方もコロコロ変わっている部分があって、なかなか定着が難しいという、こういった状況もあるんですけどね。そうした中で、今山岡先生がおっしゃっていただいたような、何とかそういったものが、きちんと蓄積する。そのためには本来的には今回の展示会でも、こういう主旨でやりました、そのためにこういうものを集めて、展示しています、そういったよく博物館でいう図録的なもの、これをやはり定着させたい、と私の方は思っております。そうすると、前にやった人の「こうなっているんだ」というものがしっかり次の人に伝わる、というのがあるんですけどね。ただ、今私たちの方本当に、人数が少ないというのもあって、いっぱいいっぱいの中でやっているもんですから、展示してそこまで作るというところがなかなか、全ての展示会ができていないという、その辺は非常にもったいないんですけど、今山岡先生おっしゃっていただいたように、そういったこともきちんと蓄積して次に継承していく、というところは

やりたいと思っていますので、是非またその辺は皆さんのお力添えをいただきたい、と思います。

山岡会長

ご意見お願いします。

上原委員

「その他」のところで、今、情報の発信ということなんですけど、その「その他」の部分では、発信していってもらおうというところで、自らっていうどういう市民なのか、目指す市民の姿が自ら周りの人という部分では、自ら発信してもらえる仕掛けみたいなのが必要な部分と、発信していく、こちらの方は年々皆さん職員の方、前年度より絶対にレベル高いのをやっていくというプライドがある中、情報発信は本当に多種多様で、トロペーの活躍も年々すごく高まっているな、という状態であるので、今お話になっていた振り返りで、蓄積していくっていうところがないのがすごくもったいないな、っていう。本当に年々レベルアップされていると思うので、その中で先ほどエリアとしての情報発信というところで、絶対的に予告がすごく足りませんよね。あの、どこでも行政はやった実績をちゃんと報告するところはすごい厚いんですけど、なので、近々で何かないかな、出かけたいな、誰かとちょっと会う約束してるから、ちょこっと出かけたいなと、調べると「いいな」と思っても、やりました、終わりましたになっちゃっている。なので、直近のイベントもこれだけやられているので、検索した時に何月何日に申込スタートとか、検索した時に「行けるんだ」「これちょうどいい」というふうに出てくるようなことを発信していく、というようところが「その他」のところで大事かな。「その他」のところでも「学ぶ」「親しむ」「関わる」という意味だと、感動があれば発信してもらえるので、感動と、あとその検索して発信したものに対して反応してもらおう、というところは、興味とか好奇心っていうキーワードに、「その他」のかぎかつこのところですね、になって、その後が情報発信と発信してもらおう仕掛けのところかなと思いました。すごくこれだけのことをやられているんですけど、先ほどお子さんがワールドカップのところで言ったっていう、すみません、すごく古い話で、駿府城公園っていうと、「フェスタ静岡」の世代と「ワールドカップ」の世代とあるんですけど、この登呂の

エリアを「この時代は何」っていうふうに、工程表の令和12年までの間に、ここにどういう爪痕を残せるのか。それが観光で稼げる、っていうところと、先ほどどなたか、「登呂でないとできないことは何か」っていうことを、もう少し磨き上げてシャープにした方がいいのかなど。その結果、音楽フェスなのか、キャンプファイヤー的なイベントが、「いつもやっているところだよ。」なのか。逆にハード面で、マーライオンとか、タワーみたいな象徴的なものを作るかはわからないんですけど、それが歌なのか、登呂エリアのCMソングみたいな歌なのかわからないんですけど、何かそういうものが必要で、愛着を育む、誇りを育むというところとリンクさせて考えると、例えば音楽フェスをやるとなった場合は、先ほど企画から学生さんたちにやってもらうという意味では、自治ができる、自治でやっていくと、その組織に抱負とかチームカラーができて、伝統が、そこに形のないものなんですけど、なので登呂のアイデアを、自分たちがこういうふうに育てていったんだ、という誇りをもてるような自治組織みたいなものが、学生の時に育まれて、それは内部的なものなんですけど、縦割りで、小学生の子が大学生のお兄ちゃんに身近に憧れを持てるとか、何かそういう、内部的な、外向きには、それがやっぱりおもてなしとか、ホスピタリティで誇りをもって掲げる、組織・自治の子供たちがアウトプットできる、先ほどの放たれて誇りを語ってくるような、それはやり方が何かわからないんですけど、アウトプットできる何か絶対必要なんじゃないかな、そこが結局発信に戻ってくるのかな、というふうに流れて思いました。長くなってすみません、以上です。

山岡会長

ありがとうございます。アウトプットできるような、それぞれの人が情報を発信したくなるような、というところです。

上原委員

そうですね、わかりやすいので、例えば、観光で稼げるといった時に、登呂でワールドカップのサテライトでもいいんですけど、規模は小さくてもジャズフェスを毎年やっているとか、それを自治で何をやるかからもやってもらって、そうすると、2年目3年目というのが、2期3期みたいな、何代目という感じになっていって、その風土が内的には誇りになるんですけど、それをいかに外にアウ

トットして、さらに内的な誇りを発信できるような、アウトットするというところまで企画していってもらって、自治で運営してもらう、その辺りが何かというところまでは出ないんですけど。

山岡会長

運営面などでも関わっていただいて、あとインパクトのあるコンテンツがあると、ということですね。そうすると、自分でやっているということでもそうだし、強いコンテンツだから何か発信したくなる。そういう何かがあるといいんじゃないかということですね。

上原委員

市民とはどんな市民か、自ら周りに伝えるという部分を、この「その他」にどういう形で、はい。

山岡会長

「その他」のところでのご意見ですね。ありがとうございます。

堀切委員

ここで協議するとああいうこともすべきだ、ということになって、それを全部やると当然現場は疲弊するばかりですので、このパンフを見たら、相当頑張っってしっかりやっっていらっしやると思いますので、是非、現場が疲弊しないようなやり方をまた考えていただければ。そのためには、全部職員でやるということではなく、外部に出せるものはどんどん出して、業務委託でもなんでもいいですし、出していただくのがいいと思います。最後に1つだけ、広報から、前回も言いました、先ほどもお話ありました、YouTubeの展開は是非やっていただきたい。10分とか20分じゃなくていいので、1分か2分でいいので、YouTubeのチャンネルをたくさん作るのが今必須ですので、それをやっていただきたい。それも、職員でやる必要はないと思うんですよ。YouTubeとか得意な人はいくらでもいるんで、そういう人をボランティアで雇うとかでも、なんだったら業者に任せてしまおうとか、職員が、現場が疲弊しない形で広報戦略を考えていただけたら。是非ご検討ください。

山岡会長

ありがとうございました。それでは、このあたりで議論は終わりたいと思います。本当に皆さんからたくさんのご意見いただきまして、ありがとうございました。皆さんからいただいたご意見は、これから集約して引き続き、来年度第1回の協議会でまとめて、答申するという流れで進んでいくということになります。これで議事を終了させていただいて、司会進行を事務局側にお返しします。

事務局

本日はありがとうございました。閉会の前ですけれども、館長が来月末で退職します。今回の協議会が最後の出席となります。一言ご挨拶を申し上げます。

館長

平成30年度から、この博物館の館長になりまして、ちょうど3年間やらせていただきました。その間、協議会委員の先生方には色々活発な議論とかご提言いただきまして、本当に感謝しております。今回のこの発言をしっかりと引き継いで、職員、それから新しい館長に引き継ぎをして、博物館運営をこれからも前進させていきたいと思っております。本当に、3年間色々お世話になりました。ありがとうございました。

事務局

それでは、これをもちまして令和2年度第2回登呂博物館協議会を閉会させていただきます。本年度の協議会はこれをもちまして終了でございますが、来年度の第1回協議会の際に、今までの協議を踏まえて、引き続き新案を更新いただくこととなります。よろしく願いいたします。では、本日はお忙しい中ご出席いただきまして、誠にありがとうございました。

署名欄

静岡市立登呂博物館協議会

会長 山岡 拓也

委員 上原 薫
